

# 農林水産商工常任委員会提出資料

(平成23年10月7日)

項 目	ページ
1 台風12号等による農林水産業の被害状況について	
【農政課】	1
【農地・水保全課】	”
【森林・林業総室】	”
【水産課】	”
2 平成23年度「食のみやこ鳥取県フェスタ」の開催について	
【農政課】	3
3 湖山池会議の概要について	
【農政課】	別紙
4 主要農産物の生産販売状況について	
【生産振興課】	4
5 「平成23年度鳥取県畜産共進会」及び「畜産ふれあい祭」の開催について	
【畜産課】	5
6 緊急雇用創出事業の予備枠による事業の追加実施について	
【森林・林業総室】	6
【農林総合研究所】	”
【食のみやこ推進課】	”
7 農林水産部の試験研究に係る外部評価の実施について	
【農林総合研究所】	7

農 林 水 産 部

# 台風12号等による農林水産業の被害状況について

平成23年10月7日  
農 政 課  
農地・水保全課  
森林・林業総室  
水 産 課

## 1 台風12号による被害状況

9月3日（土）から4日（日）にかけて鳥取県を横断した台風12号に伴う大雨等により、県中・西部地域を中心として、農林水産業施設等に被害が発生し、10月4日現在の被害状況を以下のとおり取りまとめました。

○合計被害金額（10月4日正午現在）：3,059,695千円

内訳：農作物 336,790千円、農業施設 2,110,078千円、林業 610,328千円、水産業 2,499千円

### (1) 農業関係被害

#### ア 農作物被害

品目名・畜種名	被害規模	被害金額(千円)	被害状況	備考
ブロッコリー	95.27ha	225,349	冠水等による根痛みによる枯死等	大山町 他10市町村
梨	6.31ha	38,447	落果被害	大山町 他7市町
その他	—	72,994	落果被害、土砂流入、湿害等	江府町 他9市町
合計		336,790		

#### イ 農業用施設被害

・冠水によるライスセンターの機械破損等（被害件数：20件、被害金額：9,640千円）

#### ウ 農地・水路・農道等施設被害

区分	被害か所数	面積・延長	被害金額(千円)	被害状況	備考
農地	634	124.96ha	650,648	畦畔・法面崩壊等	倉吉市 他14市町
農業用施設	694	16,878m	1,449,790	法面崩壊等	大山町 他14市町
合計	1,328	—	2,100,438		

### (2) 林業関係被害

区分	被害か所数	被害金額(千円)	被害状況	備考
林道	152	532,594	法面・路肩崩壊等	鳥取市 他14市町
作業道	100	69,105	法面・路肩崩壊等	智頭町 他12市町
林地崩壊	36	8,629	森林被害	倉吉市 他4市町
合計	288	610,328		

### (3) 水産関係被害

・米子市漁協のヒラメ養殖場の屋根破損等（被害件数：3件、被害金額：2,499千円）

## 2 台風15号による被害状況

9月21日(水)に鳥取県に最接近した台風15号に伴う大雨等により、県東部地域を中心として、農林水産業施設等に被害が発生し、10月4日現在の被害状況を以下のとおり取りまとめました。

○合計被害金額(10月4日正午現在判明分のみ)：390,130千円

内訳：農作物 7,700千円、農業施設 236,430千円、林業 145,000千円、水産業 1,000千円

### (1) 農業関係被害

#### ア 農作物被害

品目名・畜種名	被害規模	被害金額(千円)	被害状況	備考
そば	0.78ha	128	冠水等による減収	岩美町
ブロッコリー	5.78ha	1,777 ※大山町を除く	冠水等による根痛みによる枯死等	大山町 他2市村
ニンジン	2.61ha	5,795	冠水等による根痛みによる枯死等	米子市
合計		7,700		

#### イ 農地・水路・農道等施設被害

区分	被害か所数	被害金額(千円)	被害状況	備考	
農地	田	25	28,200	畦畔崩壊	鳥取市 他2町
	畑	15	87,880	法面崩壊	鳥取市 他1町
	小計	40	116,080		
農業用施設	水路	16	17,600	法面崩壊等	鳥取市 他2町
	農道	15	76,750	法面崩壊等	北栄町 他3市町
	頭首工	4	26,000	頭首工の損傷	鳥取市 他1町
	小計	35	120,350		
合計	75	236,430			

### (2) 林業関係被害

区分	被害か所数	被害金額(千円)	被害状況	備考
林道	21	145,000	法面・路肩崩壊等	鳥取市 他3町

### (3) 水産関係被害

・天神川漁協の管理釣場の鉄橋が損傷(被害金額：1,000千円)

# 平成23年度「食のみやこ鳥取県フェスタ」の開催について

平成23年10月7日  
農 政 課

県民の農林水産業に対する理解を深めるため、また、地域特産物及び地場産業の振興を促進することにより「食のみやこ鳥取県」を推進するため、「食のみやこ鳥取県フェスタ」を開催します。

(※今年度のフェスタは、「鳥取県農林水産祭」の時代から数えて50回目)

なお、本年は「第31回全国豊かな海づくり大会鳥取大会」との連携開催となります。

## 1 展示会・即売会等

(1) 日 時 10月29日(土) 午前10時から午後4時  
30日(日) 午前 9時から午後4時

(2) 内 容 県内で生産された農林水産物、地域特産物及び加工品等の展示、即売会など

## 2 場 所 コカ・コーラウエストスポーツパーク

(鳥取県立布勢総合運動公園・県民体育館周辺)

## 3 主な催し内容 [屋外で開催]

区 分	内 容
啓発展示	<p>【鳥取県優秀経営農林水産業者等紹介コーナー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取県優秀経営農林水産業者として知事表彰を受けた農林水産業者等の活躍の様子や功績等をパネルで紹介</li> </ul> <p>【農林水産技術等普及啓発コーナー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>県の試験研究機関における試験研究成果、新品種の紹介、農林漁業関係団体による啓発パネル等の展示等</li> </ul>
即 売 会	<p>【大地と海の恵みエリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農林水産業団体による農林水産物や加工品の紹介・販売</li> <li>農林水産業の普及・啓発のための体験イベント開催</li> </ul> <p>【鳥取の味エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取県自慢の郷土料理や食材、ふるさと認証食品の展示、試食、販売</li> </ul> <p>【ふるさと自慢エリア】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地元グループによる名物料理、加工品等の販売</li> <li>食をはじめとした市町村のPR</li> </ul>

(その他のイベント)

コーナー名等	内 容
木工教室	親子で楽しむ木工教室の開催
ペット相談コーナー	鳥取県獣医師会によるペット相談

## 4 主 催

食のみやこ鳥取県フェスタ実行委員会(会長:高見 俊雄 J A鳥取県中央会会長)

構成機関:鳥取県、県市長会、県町村会、J A鳥取県中央会、J A鳥取信連

J A全農とっとり、J A共済連鳥取、NOSA I鳥取、県森連、県漁協など20団体

# 主要農産物の生産販売状況について

平成23年10月7日  
生産振興課

## 1 水稻

### (1) 作柄概況

5月下旬から6月中旬の日照不足等の影響で基数の増加が抑制され、穂数が少なくなったことから、6月中旬以降の高温、多日照で1穂粒数は増加したものの、面積当たりの粒数は平年に比べてやや少なくなった。一方、登熟は平年並みと見込まれるため、9月15日現在の本県の作柄は「平年並み」が見込まれる。(中国四国農政局鳥取地域センター)  
(10アール当たり)

区 分	予想収量(kg)	平年収量(kg)	作況指数(作柄)
鳥 取 県	508	514	99(平年並み)
中国地区	526	517	102(平年並み)
全 国	535	530	101(平年並み)

### (2) 収穫・品質検査成績の概況

- ・9月20日現在の収穫の進捗率は35%で、昨年(同期49%)と比較して遅れている。主な原因は、台風の影響による長雨で収穫作業の遅れ。(生産振興課調べ)。
- ・9月15日現在の水稻うち玄米の1等米比率は53%で、昨年同期(24%)と比較して高い。2等以下になったものの主な格付理由は、整粒不足、充実度、着色粒(カメムシ類)、心白及び腹白の順に多く、夏期の高温が原因とみられる白濁粒(心白、腹白)等は昨年と比較して少ない状況。(全農とっとり取扱い分)。

## 2 梨

### (1) 二十世紀梨の販売状況

8月30日から始まった二十世紀梨(露地)の販売は、9月26日で概ね終了した。数量は、実止まり不良であった前年と比べて143%と大幅に増えた。市場単価は、過去最高だった昨年を上回る単価で始まったものの、その後急落し、前年対比70%の256円/kgとなった。

	平成23年度		平成22年度		前年対比	
	数量(t)	単価(円/kg)	数量(t)	単価(円/kg)	数量(%)	単価(%)
二十世紀	5,750	256	4,014	366	143	70

※全農ととりの9月26日時点の速報値(市場出荷分の集計)

### (2) 単価が下落した原因

- ・全般的に果実の市場入荷量が増えたこと。
- ・台風12号と小売単価高により9月上旬の需要が低迷したこと。
- ・二十世紀梨が小玉予想に反して大玉となり販売対応が後手にまわったこと。
- ・台湾の中秋節が9月12日と早く、大玉輸出が減少し国内流通が増えたこと。
- ・福島県産の梨の市場出荷が増えて安値で取引されたこと。

### (3) 価格低迷への対応

- ・全農とっとり、農協、選果場は、9月7日～9日の4L、5Lサイズの二十世紀梨を冷蔵庫保管して市場隔離、9月11日～12日に2割減の出荷制限の対策を講じた。
- ・県は、食のみやこ鳥取梨流通対策事業により冷蔵庫保管料及び出入庫時の価格差補填(200円/ケース上限)、冷蔵庫保管した梨の職域斡旋(県関係者で540ケース)を行なった。

### (4) 新品種「なつひめ」「新甘泉」の販売状況

- ・前年の約2倍の100t強を出荷し、赤秀品は、「新甘泉」500円強、「なつひめ」400円強と高値で市場販売されている(販売実績集計中)。
- ・「なつひめ」の完熟品を目指して9月中旬以降に出荷したものに、色が白く日持ちが悪い果実が混ざって値を下げたことから、対応策を検討していく。

# 「平成23年度鳥取県畜産共進会」及び「畜産ふれあい祭」の開催について

平成23年10月7日  
畜産課

## 1 平成23年度鳥取県畜産共進会

### (1) 開催目的

県内の畜産農家が自分の飼養する家畜を出品してその優劣を競い、家畜改良の推進、飼育技術の研鑽と生産振興を目的に開催される。

### (2) 主催

全国農業協同組合連合会鳥取県本部、大山乳業農業協同組合

### (3) 概要

#### ① 種畜の部（第1部 <sup>わしゆしゆぎゆう</sup>和種々牛の部、第2部 <sup>にゆうぎゆう</sup>乳牛の部）

【日時】平成23年10月8日（土）午前9時30分～午後3時30分

【場所】東伯郡琴浦町湯坂「鳥取県中央家畜市場」

【出品頭数】和牛49頭、乳牛70頭

【審査内容】年齢別等により和牛は6区、乳牛は7区に分け、体型等を比較審査。

各区の首席には知事賞が、またグランドチャンピオンには農林水産大臣賞が授与される。

#### ② 肉畜の部（第3部 <sup>にくぎゆう</sup>肉牛の部、第4部 <sup>にくとん</sup>肉豚の部）

【日時】平成23年10月1日（土）午前10時～正午

【場所】西伯郡大山町小竹「鳥取県食肉センター」

【出品頭数】和牛肥育牛40頭、肉豚68頭

【審査内容】枝肉の各部位を測定し、審査。

肥育牛、肉豚のそれぞれの首席に知事賞及び農林水産省生産局長賞が授与される。

#### 【受賞結果】

＜肥育牛の部＞知事賞：鳥取市青谷町 山下昌治氏

〔父：勝忠平、格付：A5、枝重：409.8kg、ロース芯：71cm<sup>2</sup>、BMS：11〕

生産局長賞：西伯郡大山町 尾古博明氏

〔父：勝安波、格付：A5、枝重：533.9kg、ロース芯：57cm<sup>2</sup>、BMS：10〕

脂肪の質賞（知事表彰）：東伯郡琴浦町 有限会社とうはく畜産

〔父：勝安波、格付：A4、枝重：475.2kg、ロース芯：45cm<sup>2</sup>、BMS：6〕

＜肉豚の部＞ 知事賞・生産局長賞：鳥取市気高町 山本良春氏

## 2 畜産ふれあい祭

食肉の安全性のPR、畜産技術等の紹介のほか、ミニ動物園の開園など、消費者と畜産のふれあいを目的として、毎年、県畜産共進会（種畜の部）に併せて開催される。

また、当日は、県産の畜産物（食肉、牛乳、乳製品等）の即売コーナーなども設けられる。

【主催】鳥取県畜産ふれあい祭実行委員会（事務局：（社）鳥取県畜産推進機構）

【日時】平成23年10月8日（土）午前9時30分～午後3時30分

【場所】東伯郡琴浦町湯坂「鳥取県中央家畜市場」

## 緊急雇用創出事業の予備枠による事業の追加実施について

平成23年10月7日  
農 林 水 産 部  
(森林・林業総室)  
(農林総合研究所)  
(食のみやこ推進課)

### 1 緊急雇用創出事業の県事業予備枠を活用して追加実施することとした事業費

(9月27日までに追加実施を決定した事業)                      20,417千円

### 2 追加実施事業の内訳

事業名	本年度予算額 (うち新規雇用人件費)	雇用創出人数 (延べ)	①月額給与			事業内容
			②雇用期間(予定)	③被雇用者の要件		
森林情報充実化による 団地化推進事業	4,731千円 (4,300千円)	6人	① 141千円	② H23年8月 ~H24年3月	③ パソコン操作等	森林情報を森林GISに入力する作業、さらに入力データの分析、現地調査を委託し、団地化を推進するための効果的な低コスト施業体系モデルを作成する。
弓ヶ浜松林再生事業	6,347千円 (4,899千円)	4人	① 189千円	② H23年11月 ~H24年1月	③ なし	本県の西玄関口である国道431号線沿いの弓ヶ浜松林内での昨年年末及び今年年始の豪雪被害による枯れ枝(赤褐色に変色)を除去し、併せて、劣勢木の除去を行い松林の再生につなげる。
農林総合研究所企画総務部管理運営費	1,265千円 (1,265千円)	1人	① 141千円	② H23年10月 ~H24年3月	③ なし	農林総合研究所企画総務部の運営に必要な業務(①各試験場が行う試験研究に対する外部の要望の集計、資料作成②試験場課題検討会、外部評価委員会、産学官技術会議の会議資料作成)について臨時的任用職員(事務補助)を置き対応する。
中小家畜試験場管理運営費	897千円 (897千円)	1人	① 115千円	② H23年10月 ~H24年3月	③ なし	新たに豚人工授精の利用を開始する農家の増加が予想されるなか、精液採取、精液の希釈・保存、精液の発注・発送等の精液供給業務を行う畜産技術員(非常勤)を置き対応する。
近畿・中国・四国B-1グランプリ開催に向けた食による地域振興事業	7,177千円 (3,639千円)	4人	① 200千円	② H23年9月 ~H24年3月	③ なし	「2012近畿・中国・四国B-1グランプリin鳥取」開催に向けて、県内のご当地グルメ活動団体の掘り起こしや育成、ネットワーク化を行い、食による地域振興活動を活性化・定着させる。
合 計	20,417千円 (15,000千円)	16人				

※この事業は「緊急雇用創出事業臨時特例基金」を活用して実施する事業です。

# 農林水産部の試験研究に係る外部評価の実施について

平成23年10月7日  
農林総合研究所

## 1 期日及び場所

平成23年9月15日（西部総合事務所）

## 2 目的

農林水産部試験研究機関の試験研究課題について、多角的・客観的視点からの試験研究課題の選定、試験研究の効率的な実施及び広範囲に普及可能な技術等の確立を図ることを目的に、外部評価委員による評価を実施。

## 3 実施方法

### (1) 評価対象

①来年度から取り組もうとする研究課題（事前評価対象）

②4年以上に亘る研究課題で本年度に中間年に達したもの（中間評価対象）

### (2) 評価方法

各試験課題について、概要説明と質疑応答を行い、外部評価委員一人ひとりが、各評価項目について5段階評価を行った。

各外部評価委員の評価の総合点の平均値により、判定を行った。

区分	評価項目	平均値	判定
事前評価 (15点)	①研究ニーズ、受益者は明確か。	12点以上	◎ 研究を実施する
	②研究ニーズの将来性はあるか。	12点未満 9点以上	○ 研究内容・方法を見直して実施する
	③研究計画・目標は整理されているか。	9点未満	× 実施を見合わせる
	④消費者・生産者への効果が期待できるか。		
	⑤研究費以上の効果はあるか。		
中間評価 (15点)	①社会変化等により継続の必要性が薄れてないか。	12点以上	◎ 研究を継続する
	②計画どおり進捗しているか。	12点未満 9点以上	○ 研究内容・方法を見直して継続する
	③期待した目標の達成が見込めるか。	9点未満	× 研究を中止する
	④消費者・生産者への効果が引き続き期待できるか。		

・委員は、本年6月23日に改選。11名の委員中、出席委員は延べで6名（表右欄出席）

区分	職業等	氏名	任命状況	出欠の別
学識経験者	鳥取大学顧問	岩崎 正美	再任	欠席
	鳥取環境大学教授	三野 徹	新任	出席
流通・経済界	東亜青果（株）取締役副社長	牛込 淳彦	新任	出席
消費者	グリーンコープ生協 とっとり専務理事	新田 ひとみ	新任	出席
	NPO法人ナルク鳥取事務局長	金田 倫子	再任	出席
生産者	畜産農家	高力 房枝	再任	欠席
	稲作農家	雨河 昇	新任	欠席
	なし農家	花田 敏江	新任	欠席
	林業経営	清水 泰	新任	出席
	種苗農家	秋田 愛子	再任	出席
	共和水産（株）代表取締役	相田 仁	新任	欠席

## 4 評価結果の概要

区分	判定						合計
	事前評価			中間評価			
	◎	○	×	◎	○	×	
農業試験場	2	1	1	1	1		3
園芸試験場	0			10	10		10
畜産試験場	0			0			0
中小家畜試験場	2	2					2
林業試験場	1	1					1
水産試験場	1	1					1
栽培漁業センター	2	2					2
課題数合計	8	7	1	11	11		19

※ 各試験研究課題の概要と評価結果は別紙のとおり。



農業試験場		試験研究課題	実施年度	目的、成果	評価結果	
事前1	気候温暖化に向けた水稲・大豆基幹品種の品質等向上試験	H24～H26	<p>県内50%以上作付けされている水稲「コシヒカリ」の平地地を中心とした品質向上を目的とした試験を実施する。特に登熟中の高温条件回避を目的とした移植晩限について検討する。</p> <p>県内70%程度作付けされている大豆「サチユタカ」の初期生育確保とそれによる安定生産に向けた試験を実施する。</p>	<p>評点 13.3</p>	◎	
				<p>主な委員の意見</p> <p>戦略的、多角的な対応が望まれる。「きむむすめ」についてのPRも合わせて進めるべき。</p> <p>大豆に関して、他県での知見も多くあり、それらをうまく利用して、鳥取に見合った効率的な手法を確立していただきたい。</p>		
事前2	耕作放棄地解消に向けた復田化及び畦畔管理技術の確立	H24～H26	<p>解消可能な耕作放棄地の復田化に向けた管理手法を検討し、耕作放棄地の程度(荒れ具合)にあった復田化マニュアルを策定する。</p> <p>併せて、畦畔管理の省力化に向けて、被覆植物の早期繁茂化による草刈り作業の削減技術試験を実施する。</p>	<p>評点 11.8</p>	○	
				<p>主な委員の意見</p> <p>普及にどのようにつなげるかが最大の課題。今のうちに技術的にしっかりしたベースを作って欲しい。</p> <p>真にニーズが有るのか不明。復田の技術の確立は必要だとは思いますが、すぐには結びつくものでない気がする。</p>		
中間1	水稲・大豆の「ゆうきの玉手箱」技術確立事業	H21～H24	<p>消費者が求める安全・安心で高品質な農産物の供給に応え、「食のみやこ鳥取県」をリードする特色ある食材を育成するため、有機栽培水稲・大豆の安定生産と栽培拡大につながる、取り組み易い以下の技術の確立に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有機栽培水稲における育苗・除草方法の改善、新たな問題害虫の防除技術の検討を進める。</li> <li>・輪作を取り入れた大豆の雑草抑制・病害回避等の効果、等の検討を進める。</li> </ul>	<p>評点 12.5</p>	◎	
				<p>主な委員の意見</p> <p>有機の優位性(価格)が減少しているのではないかと。早急に普及につなげて欲しい。</p>		

園芸試験場		試験研究課題	実施年度	目的、成果	評価結果	
中間1	「なつひめ」等青ナシオリジナル品種の栽培技術の確立	H21～H25	<p>なつひめ等青ナシ品種について、早急に高品質果実生産と樹体の健全育成を両立できる整枝せん定法や適正着果基準等の栽培技術を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「夏さやか」は、えき花芽利用で3年で側枝更新が必要。</li> <li>・「夏さやか」「なつひめ」は、「二十世紀系統」に比べ肌が強く果面が汚れにくいので、小袋1回袋掛けによる袋掛けの省力化が可能。等</li> </ul>	<p>評点 12.4</p>	◎	
				<p>主な委員の意見</p> <p>最近の気象状況の変化に対応するべく、栽培技術を早急に確立されるべきだと思う。</p> <p>低温、長雨、干ばつ等の対応を栽培者へいち早く指導があれば、生産者の所得に大きな変化をもたらす。</p>		
中間2	「新甘泉」等赤ナシ新品種の省力安定栽培技術確立	H21～H25	<p>新甘泉等赤ナシ品種について、省力化が可能で高品質果実生産が可能な整枝せん定法や適正着果基準等の栽培技術を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「新甘泉」の着果密度はm<sup>2</sup>当たり10果程度が適当。</li> <li>・「新甘泉」の剪定方法として、早期に骨格(主枝、亜主枝)を作り側枝を4年目の更新で収量確保が可能。</li> <li>・ジョイント仕立て栽培の実証に取り組み、着果。等</li> </ul>	<p>評点 13.0</p>	◎	
				<p>主な委員の意見</p> <p>生産者・消費者への効果はもっと考えないといけない。王秋の障害は何とかがして欲しい。</p>		
中間3	気象変動に左右されない花き類の高品質化技術の開発	H21～H24	<p>近年の著しい気象変動で、本県の施設花き生産は著しい品質低下を引き起こし、販売価格が低迷している。そこで、本県の推奨品目のシンテッポウユリ(秋冬出荷)、トルコギキョウ(秋出荷)、ストック、花壇苗について、高品質な花きを栽培する技術を確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シンテッポウユリの秋冬出荷では、プラスチック(花蕾の発育停止)が多発する原因として、8月下旬～9月中旬の高温の影響が大きいことが明らかになった。</li> <li>・トルコギキョウ(秋出荷)は、出荷時に十分な切り花長が得られない。育苗中のCO<sub>2</sub>施用や定植後の電照等により、慣行に比べ1.5倍の切り花長が得られた。等</li> </ul>	<p>評点 12.0</p>	◎	
				<p>主な委員の意見</p> <p>テーマにより進捗のバラツキがあることと、実用化への問題点もある。</p> <p>気象変動と品種の問題がはっきりしていない。</p>		
中間4	未利用農地等を有効利用する花き類の(露地)栽培技術の開発	H21～H25	<p>未利用農地向き栽培が可能で商品性が高い品目を検索し、露地における高品質栽培技術を、規模5a以下の小規模経営、あるいは5a以上の中規模経営に仕分けて確立する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・露地栽培向き品目の検索として、枝物ではサルトリイバラ等、宿根草では盆出荷可能なエキノブス等を選定した。</li> <li>・低コスト・高品質栽培法を検討し、枝物では果樹棚を利用したツルウメドキの誘引により、労働時間が慣行の15分の1となり品質が著しく向上した。</li> <li>・シンテッポウユリ(季咲き作型)では、生育中期の追肥を削減しても、切り花品質への影響は無いことが明らかになった。等</li> </ul>	<p>評点 12.4</p>	◎	
				<p>主な委員の意見</p> <p>出荷時期のコントロールが課題。何をやるかという研究以前の問題もある。</p>		

園芸試験場(続き)					
中間5	バイテクによるナン新品種シリーズの育成	H19~H28	品薄の需要期である8月上旬に出荷できる省力型でおいしい極早生品種の育成が熱望されている。また、白紋羽病による苗木の枯死が多く改植が進まないため、耐病性台木の育成も求められている。そこで、バイテク手法等を利用し、効率よく優良品種・台木の育成を目指す。 ・現在までに約2000個体の交雑実生を育成し、平成23年度より、果実調査による選抜を開始する。 ・ナン品種の倍加技術(特許申請中)を確立し、育成した四倍体は効率で自家和合性を獲得することが明らかとなった。現在、優良早生品種に自家和合性形質を付与することを目指し、その四倍体の育成・評価を進めている。等	評点	13.0
		主な委員の意見	5年後に実用化に行けるかのスケジューリングが必要。 育種は長時間がかかる。息の長い研究だが、鳥取ブランドの青梨の幅が広がる大切な研究と思う。	判定	◎
中間6	バイテクによる花きニューアイテムの開発	H19~H28	バイテク手法等を利用し、鳥取県の気候風土に適した高品質で安定出荷できる独自の新品種を開発し、ブランド力を強化する。 ・リンドウでは、需要期である盆前から彼岸に安定出荷でき、頂花がきれいに着色する品種の育成を目指して、現在交配組み合わせを検討中。また、日持ち性の向上を目指して、優良系統四倍体と優良系統(二倍体)との交雑により、三倍体を作成し、その特性を評価中である。 ・シンテツポウユリでは、抑制作型に適する優良品種育成を目指し、年内採花率が高く高品質な3系統を選抜し、世代を進めて草姿の改良や形質の揃いを向上中である。等	評点	13.2
		主な委員の意見	スピードのある研究体制を。 市場の開拓、市場を海外へ求めるなど、産地形成を市場とつなぐ研究も必要。	判定	◎
中間7	人と農にやさしい低コスト型ラッキョウ生産技術の確立	H21~H25	県内全域の砂丘地に広がったラッキョウ栽培は、近年の天候不順により生産量が不安定なため、生産安定技術を確立する。また、生産コストの低減化技術、さらには『有機栽培』の技術確立をする。 ・有機栽培ほ場での病害虫の発生は慣行区とほぼ同じで、発酵鶏糞主体の有機栽培で慣行の7割の収量があった。 ・基肥を削減しても慣行と同程度の収量となり、種球に春肥(2~3月)を与えることで分球数が増加し増収することを明らかにした。	評点	12.3
		主な委員の意見	研究成果の効果が多少見えにくい。	判定	◎
中間8	地球温暖化に対応した白ネギ安定生産技術の確立	H20~H26	夏期の高湿・過乾燥で白ネギの収量が著しく減少しているため、夏越し栽培技術を確立する。 また、周年出荷体系の強化を図るため、一本ネギの周年化技術を確立するとともに、作型別の高品質・多収品種を選定する。 ・盛夏期の灌水により地温の上昇が抑制され、欠株が減少し、無灌水栽培(慣行)の1.5倍程度の収量が得られ、盛夏期の灌水が有効と明らかにした。 また、無被覆で行える簡易土壌消毒に有効な薬剤を選定し、フロコリーとの輪作が連作障害の軽減に有効であることを認めた。 ・春どりネギの高湿期の育苗での遮光条件を明らかにし、有望品種3品種を選定した。等	評点	13.2
		主な委員の意見	害虫発生状況や害虫の種類が急激に変化してきているとのこと、早急の対応策の確立がまたれる。	判定	◎
中間9	消費者・生産者が求めるカキの革新的栽培法の確立	H21~H25	水田転換園でのカキ「西条」の樹上軟化(収穫前に柔らかくなり落果する現象)や市場出荷後の軟化の発生が問題となっている。 ・「西条」の樹上軟化落果や脱渋後の日持ちについての系統ごとの特性が分かってきた。 早期多収が可能な根域制限(ポット)栽培に取り組んできたが、新品種での栽培技術の早急な指標の作成の要望がある。 ・根域制限(ポット)栽培は、新秋や太秋などの新品種の適切な着果量が分かった。 鳥取県オリジナル品種「輝太郎」が品種登録され、苗木の導入が進んでいるが、栽培技術が確立されていない。等	評点	12.7
		主な委員の意見	系統による樹上軟化落果に差がある事を認知したのは評価できる。「輝太郎」は非常に期待できる。	判定	◎
中間10	中山間地基幹品目及び土地利用型野菜の栽培法確立	H21~H25	中山間地域で栽培される主要品目について省力、低コストな生産安定技術の開発等を目的として各種試験を実施した。 ・夏秋トマト:盛夏期に深刻な問題となる裂果の発生が少なく多収な品種「りんか409」を選定し、現地への導入を図った。高単価な9月に集中出荷するための新栽培法を検討中。 ・夏秋ピーマン:果形が良好で多収な品種「京ひかり」を選定し、現在、青枯病抵抗性を付与するための接木栽培法を検討中。追肥不要で低コストな全量元肥栽培技術を確立した。 ・白ネギ:盆前、夏、秋冬の各作型における適品種「夏扇パワー」を選定。盆前出荷作型における育苗技術の安定化に向けた試験を実施中。等	評点	12.8
		主な委員の意見	全体的に研究の成果が高く、受益者に還元できており、評価は高い。	判定	◎

中小家畜試験場		試験研究課題	実施年度	目的、成果	評価結果	
事前1	精液の保存性向上試験	H24~H26	<p>養豚経営の生産コストの低減対応の一つとして人工授精による交配が有用で、現在本県では養豚農家の約7割(全国:42%)が活用する技術となっている。</p> <p>今後、生産性の一層の向上と養豚農家の高齢化に対応した軽労化のため、本技術の改善と普及の拡大が急務となっているが、現状の液状精液は、採精後約10日が使用可能限度となっており、それを越えたものは廃棄処分とせざるを得ず、突発的発情(初産分娩以後の初回発情)時の対応が困難となることから、精液活性および精子生存率の向上について精液希釈液に着目して試験に取り組む。</p> <p>また、半永久的に保存および利用が可能である凍結精液についても解凍方法、注入手技・器材等についても検討する。</p>	評点	13.6	
				判定	◎	
主な委員の意見		他県に先がけて、現場にフィードバックできる研究であり、成果、目標が具体的で生産者のニーズにマッチしている。				
事前2	鳥取県産オリジナル豚肥育技術改善試験2	H24~H25	<p>本県オリジナル高品質豚(DB)の雄系となるパークシャー種(B)の系統造成(血液固定化)による改良を行いH25を目標に品質の高位安定に取り組んでいる。</p> <p>これまで必須アミノ酸(リジン)・脂肪酸(オクタン酸)を投与する試験を行ったが、脂肪厚低減効果は認められなかった。しかし、オクタン酸投与により旨みの代表として知られるオレイン酸組成が高くなることが認められたことから、オリジナル豚としての特徴を明確にするため、豚肉の旨み開発に取り組む。</p> <p>オクタン酸の効率的給与方法及び精製オクタン酸が高価なため代替品の検討に取り組むとともに肉の旨みに関与するアミノ酸組成についても検討する。</p>	評点	12.8	
				判定	◎	
主な委員の意見		鳥取県ブランド「大山ルビー」は魅力的だが、「食味」は個人的な好みもあり、ブランド化にはもう一工夫いる。				

林業試験場		試験研究課題	実施年度	目的、成果	評価結果	
事前1	ハイブリッド無花粉スギの創出	H24~H33	<p>花粉症対策で花粉の生産量が1%以下の「少花粉スギ」が開発されているが、少花粉品種でも年によっては花粉をつける。将来的に花粉を作らない「無花粉スギ」を作る。</p> <p>無花粉スギの遺伝様式は一对の劣性遺伝子によって支配されるので、第一段階として、この遺伝子を持つ石川県の精英樹「珠洲2号」を交配親として無花粉遺伝子を保有する県内スギの探索及び本県産無花粉スギの作出を行う。</p> <p>第二段階として、県内産無花粉スギに精英樹や耐雪性といった有用形質を取り込み、ハイブリッド無花粉スギを創出する。また、開発期間の短縮(交配、育苗及び着花性検定が不要になる)を図るために、無花粉遺伝子マーカーの開発研究を森林総合研究所林木育種センター関西支場と共同で取り組む予定である。</p>	評点	13.0	
				判定	◎	
主な委員の意見		研究期間が10年ときわめて長い。その間に社会環境やさまざまな別の対応技術も開発されるかも知れない。この事前評価に続いて、数年のPDCAサイクルを組み込むことが望ましいと思われる。				

水産試験場		試験研究課題	実施年度	目的、成果	評価結果	
事前1	県産魚を美味しく届ける技術開発	H24~H25	<p>沖合底びき網で漁獲されるモサエビは、死亡による黒変が早い。しかし、活魚輸送はコスト面などによりほとんど行われていない。モサエビの効率的活魚輸送技術を開発することにより、築地などでのモサエビの刺身用食材としてのブランド化を図る。それにより単価向上が見込まれ漁業者収入の増加及び食のみやこ鳥取県の推進が図られる。</p> <p>・境港でまき網により水揚げされるマイワシは、近年資源回復傾向がうかがえる。これまで、他魚種で脂ののりを測定し、旬や他産地との比較、脂質測定器のソフト作成を行った。境港産マイワシの特性を調査することで、科学的根拠に基づくブランド化及び適正な利用加工が図られることで境港ブランドを打ち出せる。</p>	評点	12.6	
				判定	◎	
主な委員の意見		モサエビを鳥取ブランドとして、ぜひ全国へ知らせてほしい。販路が拡大できれば、生産者の収入も安定する。このような研究は、やはり公的機関でないとは不可能であるので、研究の効果に期待する。				

栽培漁業センター		試験研究課題	実施年度	目的、成果	評価結果	
事前1	新規導入漁業資源調査	H24~H26	<p>温暖化等による漁場環境の変化により大きく変動する鳥取県沿岸の水産資源の組成(魚種)や漁場に柔軟に対応した漁業の導入を促進するため、未利用な水産資源の分布状態を漁業者(漁船)と連携して解明し、収益性の試算結果を基に有効な魚種や漁法の情報を広く県内漁業者に提供する。</p>	評点	12.8	
				判定	◎	
主な委員の意見		普及効率が悪くないか、宣伝と食べ方等の問題である。生産者を巻き込んだ調査手法も即効性が期待できる。				
事前2	未利用海藻ほりおこし試験	H24~H26	<p>鳥取県内で未利用のままとなっている有用海藻(ワカメ・アカモク・ヒジキ)を対象に、効率的な収穫方法や県内での持続的収穫可能量を明らかにするとともに、資源量が限られている海藻(アカモク・ヒジキ)について増殖手法を開発することで、漁協等が進める海藻を素材とした6次産業化の推進を技術的に支援する。</p>	評点	13.8	
				判定	◎	
主な委員の意見		成果が期待できる。消費者に届くまで頑張っていたいただきたい。				